

SBデザインオーバーフロー処理(2/2)

新規作成 2024.03.15
最終更新 2024.04.13

■ s_dataへのheight設定

- s_dataに動的に設定するheight値には次の2つのアプローチによってそれぞれ設定値[sdh1]、[sdh2]が用意される。

[sdh1]

- s_dataのheight値から算出する

$sdh1 = \text{document.getElementById('s_data').clientHeight} + 4$

[sdh2]

- y_cのheight値から算出する

$sdh2 = y_c - \textcircled{3} - 167$

$\textcircled{3} = \text{document.getElementById('title').clientHeight}$

$167 = 5 + 15 + 17 + 15 + 80 + 15 + 15 + 5$

■ s_dataのheight値を決定する要因

- [sdh1]と[sdh2]の2つのheight値のうちどちらを採用するかは、左右2つのカラムについて、どちらがcontainerのheightを決定する要因(クリティカル)になるかによって決まる。

■ CASE1 (左カラムクリティカル) 図-1参照

containerのheight(y_c)が左カラムの写真のheightを制約している場合で、右カラム全体が必要とするheight値がy_cより小さい場合。

この場合、右カラムで余ったheight値はGridの1frで定義された第2段落(data)に割り当てられる。

従って、dataには有り余るheightがあり、子要素のs_dataを余裕を持って包含することができる。

s_dataのheight値にはs_dataのheightを設定する。

$s_dataのheight = sdh = \textcircled{4} = s_dataのheight \dots \dots \dots sdh1$

■ CASE2 (右カラムクリティカル) 図-2参照

containerのheight(y_c)が右カラム全体のheight値を制約している場合で、右カラムのうち、Gridの1frで定義されているdataが縦方向圧縮の対象となる。

このとき、s_dataが取り得るheight値は、

$s_dataのheight = sdh = \textcircled{4} = y_c - \textcircled{3} - 167 \dots \dots \dots sdh2$

となる。

s_dataの全ての情報を表示できない場合がある。

■ どちらのheight値を採用するか判定 (CASEの判定)

- 2つのCASEのうち、どのCASEに該当するかは、[sdh1]の値と[sdh2]の値を比較することによって決定することができる。

[sdh1] < [sdh2]の場合 : CASE2 (y_cから算出した値を採用)

[sdh1] > [sdh2]の場合 : CASE1 (s_dataのheightから算出した値を採用)